

茂木敏充衆議院議員との対談 第2回

全3回

衆議院議員 茂木敏充先生
開倫塾塾長 林明夫

林明夫：おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

今日の「開倫塾の時間」は、先週に引き続き「今後の日本をどうするか」というテーマで、衆議院議員の茂木敏充先生からお話をおうかがい致します。先生、よろしくお願い致します。

茂木敏充先生：おはようございます。よろしくお願い致します。

林：前回の放送で、これまでの日本を振り返ると日本人には「克服力」がある、また、これからは「発想力」が大事であるという話をおうかがい致しました。このことについて、詳しいお話をお願い致します。

茂木：つい先日、映画俳優のトム・ハンクスと監督のスピルバーグが制作した「ザ・パシフィック」という太平洋戦争を描いたドラマをDVDで観ました。終戦直後の日本は全土が焼け野原で、首都も崩壊し生産設備も完全に破壊されてしまいました。東日本大震災後の被災地よりも、もっと惨憺たる状況だったと思います。ところが、戦後10年ぐらいで見事に復興し、1960年代から高度成長期に入りました。そして、70年代から80年代にかけては2回に渡ってオイル・ショックに直面しましたが、これらも乗り切って日本は省エネ大国になってきました。例えばエネルギー効率でみると、今の日本は欧米の2倍、中国やインドと比べると8倍の効率を持っています。ですから過去の日本を振り返ってみても、今回の危機を乗り越える力は必ずあると私は思っています。

林：3月11日以降の日本は、この「克服力」をどのように発揮していったらよいのでしょうか。先生のお考えをお聞かせ下さい。

茂木：オイル・ショックの時は省エネをすることで乗り切ってきましたが、これからは単に省エネ製品をつくるだけでなく、日本の経済活動全体あるいは電力の需給全体についてもエネルギー効率を世界最高にしていくことだと思います。つまり「エクセレント」な社会にすることです。

日本は現在でも、省エネの技術や製品に関しては世界一です。例えば、今非常に注目を集めているLED照明に使うチップの世界シェアは、日本が4割以上を占めています。また、リチウムイオン電池でも5割のシェアを持っています。ハイブリッドカーは9割以上です。そこに内蔵されているモーターや電池に至っては、ほぼ100%のシェアを有しています。日本は、このような省エネ製品に強みを持っていることは間違いありません。

ただ、これから「エクセレント」な社会を本当に目指していくとなると、単に製品のエクセレンスだけではなく、これまでのような大量に発電して大量に消費していく社会の在り方も見直し

ていかなければならないと思っています。

そのためには、電気を使う前段階、つまり電気を起こす段階で効率を上げることが求められます。例えば、太陽光発電の効率を 3 倍にしていく、発電をした後にそれを企業や家庭に送電する時に生じるロスを超伝導等の技術を使って最小限にしていくことなどが必要になってくると思います。

林：福島第一原発の事故によって原子力政策も見直しが必要になり、今後は単に電気を大量に作ればよいという時代ではなくなるということでしょうか。

茂木：そうですね。私も全くその通りだと思っています。同じ発電をするにあたって、石油などは違って無尽蔵な太陽光や地熱、風力などの「再生可能エネルギー」に、発電の原料つまり熱源を換えていくことがまずは必要であると思います。

次に、電気の特徴を考えたスマートな使い方が必要になります。私たちが生活していく上でどうしても必要となる水や食料、お金と電気との相違点は何だと思われませんか。

林：何でしょうね。

茂木：水や食料、お金は余った分を蓄えられますが、電気はこれまでの技術では蓄えられません。発電したら全部使わなければならない。電気は、この点に一つの課題があります。ですから、これからは電気を貯める「蓄電池」の技術が必要になってくると思います。

林：なるほど「蓄電池」ですね。震災直後には栃木県でも計画停電があり、様々な困難が生じました。今後はどのような方法で電力不足に対応していったらよいかを教えてくださいませんか。

茂木：計画停電はいろいろな問題を生みました。私は、電気を一律に止めてしまうという計画停電は決してスマートな節電の仕方ではなかったと思っています。今お話したように電気の特徴の一つは貯められないことですから、最大の電力供給に対していかに最も多く使用する時の需要をコントロールするかが正しい対応策になると思います。例えば、冬に比べると夏のほうが、夜間に比べると昼間のほうが電気を多く使いますね。このような電気を一番多く使う時間のピークコントロールが重要になってくるわけです。

このピークコントロールをするためには、例えば、企業の平日の操業を週末にずらしたり、昼間の操業から早朝あるいは夕方以降の操業にずらしたりすることも 1 つのやり方だと思います。

また「明日の電気消費はこのくらいになりますよ」という“電気予報”が出ていますので、これをもとに省エネ・省電力に努めることも必要になると思います。

電力会社はこれまで掛け声では「節電、節電」と言ってきました。しかし、電力会社にとって電気を売ることは商売ですから、電力の消費量をリアルタイムで計れるスマートメーターを各企業や各家庭に設置して電力消費を抑えることに本当は積極的ではありませんでした。これからはスマートメーターの設置が必要でしょうし、将来的には「スマートグリッド」といってその時々で一番電気を使っている地域と使っていない地域とで融通し合うシステムを作っていくことも必

要になってくると思います。

まさに、いかに少ない電力で最大限の経済活動を効率的に行っていくかが、オイル・ショックに次いで日本人の「克服力」が問われる非常に大きな課題であると思っています。

林：ありがとうございます。今日は、「今後の日本をどうするか」というテーマで「日本人の克服力を発揮する時期だ」というお話をしていただきました。茂木先生は、エクセレントでスマートな国ということをずっと主張なさっていらっしゃいますね。

茂木：はい。エクセレントでスマートな国については、次回にゆっくりとお話したいと思います。

林：今日の「開倫塾の時間」は、衆議院議員の茂木敏充先生をお招きしてお話をおうかがい致しました。ありがとうございました。